

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0990100901 | | |
| 法人名 | 株式会社豊和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム菜の花園 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市平出町1666-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年11月17日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年1月26日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 令 3 年12 月2 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居の皆様がご自身のペースで生活出来るよう心がけています。体調や精神的変化などについてはご家族と密に連絡を取り合い共に支えられるよう連携を図っています。コロナ禍においてご家族やお知り合いに会うことも難しい時です。事業所内で楽しんでいただける催しなどを企画し生活にメリハリを持っていただける支援を行っています。
リビングから見える窓の外には大きなウッドデッキがあり、腰かけて庭を眺めることが出来ます。庭の花や野菜からも季節を感じて頂けると思います。共同生活の場であってもなるべく個別の支援が出来るよう職員一同が知恵を出し合い、入居の皆様楽しんでいただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市東部の田園地帯の自然豊かな場所に位置している。法人理念を達成するためにグループホーム独自の視点で優しく寄り添う「ありがとう」の言葉と笑顔・丁寧なあいさつをケア方針に立て、職員は常に念頭に置きながらケアにあたっており、利用者が各々のペースで楽しんで生活できるよう支援に努めている。よく手入れされた広い庭園があり季節の花や野菜が育てられている。利用者はリビングや広いウッドデッキで庭を眺めたり、お茶を飲んだりしながら季節を感じている。コロナ禍の為、今はできていないが、地域住民や他事業所が地区センターのお祭りや事業所の消防訓練に参加し、良好な関係を築いている。利用者が楽しんで生活できるよう、職員は個々の支援を工夫しながら仕事に取り組んでおり、職員各々が活き活きと働いていると感じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念を達成するために管理者と職員が話し合いケア方針を作成。事務所内へ掲示して実践につなげている。 | 法人理念、いきいきと穏やかな生活を支えます・お互い様の気持ちを大切にします・家族と地域と共に歩みますを達成するために、職員皆で話し合い、グループホームのケア方針優しく寄り添う「ありがとう」の言葉と笑顔・丁寧なあいさつを作成し、共有しながら実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の消防訓練や市民センターの催し物へ積極的に参加していた。現在は新型コロナウイルス感染症対策として交流を控えている。 | コロナ禍以前は、地区市民センターの催し物や地域の防災訓練などに参加していた。またボランティアの受け入れやそば打ちなどに地域の方に参加していただいていたが、コロナ感染予防のため交流は控えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在地域の皆様に向けた活動は行っていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度、書面にて活動報告を行っているが、話し合いは持っていない。また、職員も資料を確認し次に活かせるよう取り組んでいる。 | 2ヶ月毎に市職員・地域包括職員・家族代表・自治会長・副会長・地域住民の参加により行っていたが、今は書面で活動報告している。地域の方には手渡している。書面は職員も目を通しており、次の企画につながるよう取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 必要時には積極的に報告・連絡・相談を行い協力関係を築けるよう取り組んでいる。 | 市職員には運営推進会議に参加していただき、ケアサービスの取り組みを伝えており、提出書類の相談など話しやすい関係もできている。コロナウイルス予防接種時には相談、メールのやりとりをして利用者の感染予防に繋げている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束廃止に向けた勉強会を開き、職員全体が身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。身体拘束は行っていない。 | 3ヶ月に1度、身体拘束についての勉強会をしており、その弊害について話し合い、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。日頃から敬語で話しかけてスピーチロックにならないよう努めている。日中は玄関の施錠はしていない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 県の高齢者虐待対応マニュアルなどを参考に3か月に1度程度勉強会を行うなど、職員全員が虐待について意識を持つよう努めている。 | | |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修への参加も難しいため資料などをパソコンで検索し学ぶ機会を作り、必要なお家族には提供するよう支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | コロナ禍のためご家族や本人様と十分に話し合いを行いご理解・納得して頂けるよう心掛けています。体験利用も行っているが現在は短時間にして頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様へは日々の生活の中で、ご家族には来園の際、積極的にご要望など伺う声掛けをし意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。 | 家族が利用料支払いや不足品の補充時、また病院受診時などで事業所を訪れた際に声掛けして意見を聞くようにしており、話しやすい雰囲気づくりに努めている。運営推進会議の資料を見て感想は聞けるが意見は少ないため、日ごろの会話の中での要望を聞くよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員間で情報共有を行い、意見や提案については管理者が代表者に伝え反映させている。 | 運営に関する意見は少ないが、個別の意見は口頭で話を聞くようにしている。備品修理や交換等業務については、管理者に伝えた後、代表者に伝え反映させている。利用者についての意見は日報の備考欄に記入することで情報共有するよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアアップ要件を整備し、業務や職場環境を改善し職員が向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月担当職員を決めた所内研修や入職時研修、法人内で外部講師を招いた定期研修などを行っている。また、随時必要な際はアドバイスをを行うなどケアの質を高めるよう取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 全国・県のグループホーム協会に加入し情報交換を行っている。コロナ禍で他事業所との交流は減ったが法人内研修を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス導入前にご本人から話を伺い要望を把握するよう努めている。また少しの時間でも体験して頂き、本人が安心できるよう支援している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前にご家族から現在や過去の情報を伺い、要望を把握するよう努めている。情報を踏まえご本人とも話し合うなど、よりよい関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受けて話し合いをする中で「その方が今必要としているサービス」を把握し、状況に応じて他のサービスの情報も提供している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 命令的な口調で行動を制限したり、職員の都合を優先させることがないよう心がけ、一方的にならない良い信頼関係を築くよう心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 連絡を密にとり近況を報告し、情報の共有をしている。要望を伺い、提案をしながら共に入居者を支える関係が築けるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍のため、ご家族との面会などは玄関で10分程度としている。ご家族以外の馴染みの人との接触は控えている。 | 家族等の面会は10分程度玄関で実施しており、家族以外の面会は控えている。年末年始の面会は予約制で行う予定である。散髪については床屋さんに2ヶ月毎に来てもらい利用できるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う入居者同士が会話を楽めるよう座席の配置に気を使っている。関わり合いの難しい入居者には職員が間に入るなど孤立しないよう努めている。 | | |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設に移動された場合、近況を伺ったり連絡を頂くなど関係を断ち切らないよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者とコミュニケーションをとることで、信頼関係を築き、お一人お一人の希望や意向を把握し叶えられるよう努めている。 | 利用者と日頃から話すことで、一人ひとりの希望や意向を把握するように努め、職員間で共有している。月1回の企画については、担当職員が、毎回、何をしたいか何を食べたいか伺い、その職員中心に話し合いながら叶えられるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の情報をもとに、日々の生活の中で子供の頃や若い頃、好きな物や嫌いな物、行きたい場所など伺い把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活の中で掃除や縫物、体操などを通し観察を行い現状の把握に努めている。昨日は出来たが今日は出来ないなど小さな変化にも気付けるよう心掛けて居る。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者の現状を把握し、変化があった場合は職員間で情報を共有し、随時ご家族に相談しながらその時に合わせた支援を行っている。 | 個人記録、日報の備考欄の記録を参考にしながら話し合い、6ヶ月毎に見直し介護計画を立てている。随時モニタリングしながらその都度家族と相談し、状態の変化により、その時に合わせた支援ができるよう努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録を活用し職員間で情報を共有している。気づきや提案なども記入し実践や計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者や家族と密にコミュニケーションをとることでその時々をニーズを把握し柔軟に対応できるよう努めている。 | | |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 市民センターや地域の催しなどに参加していたがコロナ禍により自粛している。安心安全が確保されたらまた参加したい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は基本的に家族に付き添っていただき報告を受けている。 また、訪問診療を希望されている方は自室で診察を受け家族に報告をし支援している。 | かかりつけ医受診は家族の協力で行っている。受診後報告を受けて状態の共有をしている。歯科受診は協力医の訪問治療を受けている。また状態変化や内科の訪問診療を希望される方にも対応して、適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携体制を整えている。訪問看護師や訪問診療の看護師などと連携を取りながら適切な看護を受けて頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際にはサマリーを提出したり、電話での情報交換を行い安心して治療して頂いている。 また、予防接種の時期には地域のクリニックの先生が来て下さり友好的関係を築いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合、急変時の対応について契約時に書面で意向を伺っている。事業所としてできることを説明しご理解頂いた上で利用して頂くよう心がけている。地域と共に行う支援は出来ていない。 | 事業所で出来る事を説明して理解を得ており、状態変化時は緊急搬送している。週1回訪問看護を受けて利用者の状態を把握する体制はできている。看取りの経験はないが、看取りの勉強会はしており、職員のスキルアップにつなげている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な訓練は行っていないためあらゆる場面を想定した訓練を行い実践力と知識を身に付けたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | コロナ禍で地域の方や消防の方に来て頂いての訓練が出来ていない。災害時には地域の力が大切だと感じるため施設内だけでもこまめな訓練を行いたいと思う。 | 年2回消防署立会いの下、地域住民の参加により避難訓練を行っていたが、今は消防署に書面で報告している。防火管理者により備品の管理、防災関係のチェックをしている。夜間想定訓練を含め多機能ホームとグループホーム職員が連携して一緒に避難通報訓練を行っている。備蓄もしている。 | 地域住民の協力体制はできているが、今後は、図上訓練も含め、防災担当者の企画をミーティング等で話し合いながら、避難訓練のこまめな実施など、職員の意識づけを行うことを期待したい。 |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | お一人お一人に対して人格を尊重した言葉かけをするよう努めている。 特に入浴や排せつに関しては他の方に聞こえないよう心掛けている。 | 利用者への言葉かけは敬語を使うようにし、違和感がないよう利用者にあった言葉かけに努めている。写真等個人関係の書類と、共有で使用する書類は別に作成してプライバシーの確保に努めている。個人情報に関する書類は鍵がかかる場所に保管している。記録紙は1日分だけ出して、後はファイリングしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 質問し話しかけることで自己決定できるよう働きかけている。職員の意見を押し付けることがないよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の大きな流れはあるが入居者のペースに合わせ支援している。起床や入床の時間も決まっていない。 「草むしりがしたい」などの個別希望にも沿えるよう努力したい。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 家族に協力を得て好みの衣類や化粧品を用意して頂いている。ご自身で選べるよう支援している。近くの理容室に来て頂き理髪を受けたり行きつけに出掛けられる方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ホール続きに台所がある。歌や体操など行う横から食事の良い香りがして楽しみにして頂ける。下膳はなるべく自身で行っていたき一緒に片づけを行っている。イベントを活用し調理の機会を作っている。 | 食材は業者から購入し職員が調理している。温かいものは温かく、冷たいものは冷たくを基本に提供している。利用者は能力に応じて下膳や片付け、またお茶の時間にコーヒーを入れたりを手伝っている。職員は離れたところで見守りながら、同じ食事をしている。イベント等で料理を作るときは利用者も積極的に参加するよう支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は食材配達の業者が立て、カロリーや栄養も計算されている。水分も記録をつけ、職員間で共有し、季節に合わせた水分摂取ができるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っていただけるよう支援している。磨き残しの多い方や磨くことが困難な方には1日1回以上職員がチェックを行っている。 義歯は毎日洗浄する支援をしている。 | | |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別記録を活用し職員間で情報を共有し声掛けを行っている。失敗が増えた場合、直ぐにリハビリパンツにするのではなく尿もれパンツや夜間だけなど自立に向けた取り組みを行っている。 | 個別記録を活用して声掛け誘導を行いトイレでの排泄支援をしている。尿漏れパンツや夜間のみリハビリパンツ使用し、声掛けすることで排泄の自立ができるよう取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日頃より牛乳やヨーグルトなど便通に良い飲食物を提供。生活の中で適度な運動が出来るよう支援している。処方薬や家族が持参される食物繊維飲料などでコントロールを行っている方もいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的な時間は決まっているが入浴日などは決めていない。希望の時間などがある場合は柔軟に対応している。 | 週3回を目安に、10:30~15:30の時間帯に、1対1対応で入浴している。入浴拒否の方には足浴したり清拭したりと工夫し、状況を家族と相談しながら対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣やその日の体調により、自由に入床や休息が取れるよう支援している。夜眠りの浅い方には日中軽い運動の声掛けをし、安心して眠って頂くよう心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個別に薬情を挟み副作用・用法容量が直ぐに確認することが出来るファイリングをしている。薬カレンダーにセット時と内服時の2度チェックを行い服薬支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 外出や外食が難しくなり事業所内で楽しんでいただける企画を実施している。何が食べたい、何がしたいなど伺いながら気分転換して頂けるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で受診も出来ない状況であったため(処方薬のみ)キーパーソンのご家族と近くを散歩される程度。 | 職員や来所してきた家族と、庭や近隣の田んぼ道を散歩したり、近所のスーパーに行くなどして楽しんでいる。以前のように外出はできていないが、近くヘドライブに行き、買い物をする時もある。 | |

グループホーム菜の花園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人の買い物のため小遣いはあるが金銭管理は難しく事務所で管理している。家族了解の上、自身でお金を持っている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自身で携帯電話を持ち込まれている方は自由に連絡を取っている。希望のある時には電話を貸す支援もしている。ご友人などから手紙が届いた時にはご本人へお渡ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所と共有スペースが同じフロアにあるため茶飲みやおしゃべりなどしていると食事の出来る匂いがし、楽しみにして頂けている。サッシ越しに花や野菜が植えられた庭を眺めることができ四季を感じて頂ける。居心地の良い空間作りを心掛けている。 | 陽あたりの良いサッシ戸からは、季節の花や野菜が植えられた庭が眺められ季節を感じるができる。ウッドデッキがあり腰掛けてお茶を飲んだり歌を歌ったりして楽しめる空間作りをしている。空調や床暖房で快適な温度管理をしており、ホールの一角にはテレビと広いソファがあり、利用者がコロナ禍でも安心してくつろげるようテーブル・椅子・手すりをこまめに消毒している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 隣の方とおしゃべりする方、一人で部屋で過ごす方、テレビを楽しむ方。思い思いに過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際、ご家族と話し合い『使い慣れたもの』を持参して頂くようにしている。使い慣れたものの持参が難しくても、ご自宅の部屋に近い居室で自由に過ごして頂いている。 | 洗面台・エアコン・窓の障子は備え付けてあり、ベットは個人持ち、布団類はリースとなっている。タンスや本棚、その他好みのものを持ち込んで暮らしやすいように工夫している。書斎のようにするなど、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室やトイレには大きく見やすい表示をつけている。また、手すりやテーブル、イスなどに掴まることで建物内を自由に歩いて頂いている。 | | |